



TITLE:

[12月23日 講義3 アチェにおけるデータベース開発の現状] アチェ災害情報データベース(DIBA)

AUTHOR(S):

イルマ スティアワティ

CITATION:

イルマ スティアワティ. [12月23日 講義3 アチェにおけるデータベース開発の現状] アチェ災害情報データベース(DIBA). CIAS discussion paper No.25 : 災害遺産と創造的復興 : 地域情報学の知見を活用して 2012, 25: 110-111

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228500>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

講義3 アチェにおけるデータベース開発の現状

アチェ災害情報データベース (DIBA)

イルマ・スティアワティ 津波防災研究センター
Irma Setyawati (TDMRC)



ここで私が紹介したいのは、津波防災研究センター (TDMRC) が運営している災害に関するアチェ地域情報データベース (Data dan Informasi Bencana Aceh, DIBA) です。これは過去にアチェで起こった災害についての情報を蓄積したもので、1907年以降のものを扱っています。

私たちのアチェの地域災害情報システムは、もともとインドネシア全国レベルで構想されていたもののアチェ州版ともいえるものです。そしてこのアチェ地域災害情報システムは、州レベルだけでなく郡レベルのデータも入れています。

■ 過去の災害情報を収集・蓄積して 多様な分析と研究・調査が可能に

資料17-1がDIBAのWebページです。このデータベースの開発の歴史を遡ってみたいと思います。2009年に議論が始まりました。データベース整備にあたってはアチェ州全域の合意が必要でしたので、県・市に人材育成を行いました。現在このアチェ地域災害情報システムはTDMRCが管理していますが、将来的には各州あるいは災害対応の担当の部局で運営してもらうことを想定しています。データベースに入っている歴史、過去の災害に関する情報は、とくに社会開発などと関係して重要だと思っています(資料17-2)。

なぜこのような情報システムが必要かということですが、まず基本的な統合的に使えるデータベースがなかったこと、情報を具体的に分析することがこれまでできていなかったことがあります。とくに災害と関係するところとしては、これから起こる災害について支援するような情報がきちんと整備されていなかったということがあります。このデータベースを通じてさまざまな分析が可能になり、さまざまな研究調査が可能になると思います。

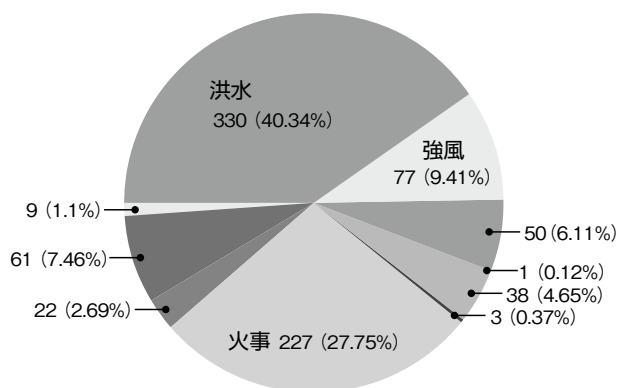
資料17-3は2005年から2010年にアチェで起こった災害の分布です。もっとも多いのは洪水です。火事もたいへん多い。森林火災は含みません。



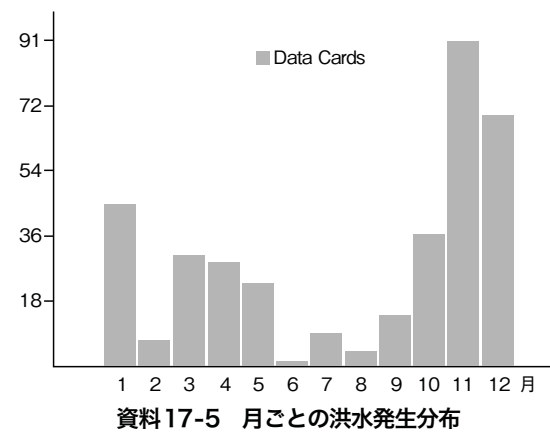
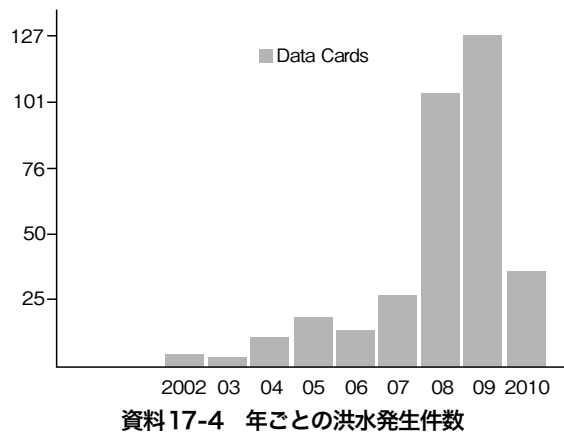
資料17-1 DIBAのWebページ

資料17-2 DIBA構築のロードマップ

Focus Group Discussion	November 11 th , 2009
Soft launching	November 23 rd , 2009
Training for administrator	April 15 th , 2010
Socialization BPBA, BPBD and related institution	July 21 st , 2010
Hands on Training in 23 districts	October 2010 to January 2011
Capacity development for BPBA and BPBD	May 11 th , 2011
Capacity strengthening for BPBA, BPBD and related institution	September 14 th , 2011

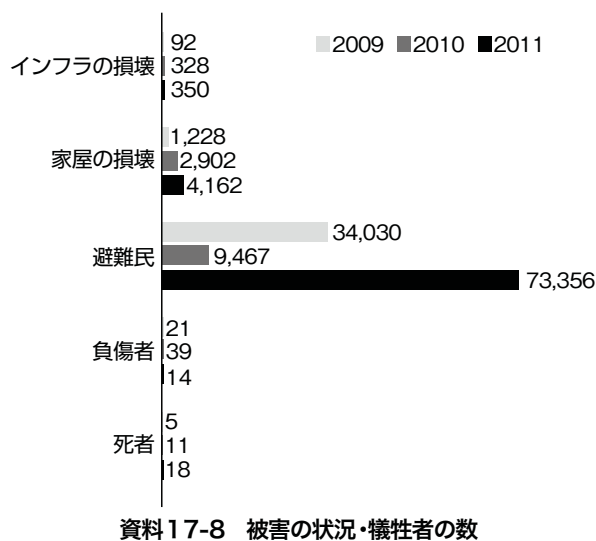
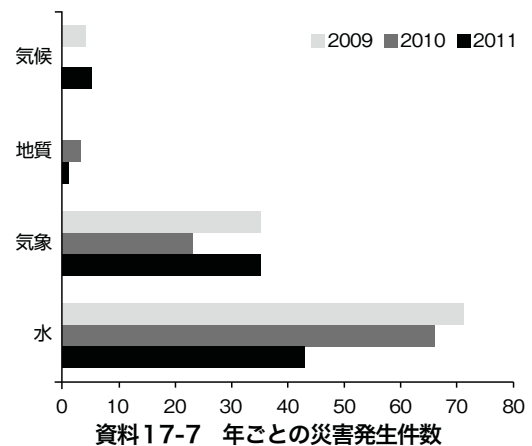


資料17-3 2005年から2010年のアチェの災害



資料17-6 分析の内容

Disaster trend
Vulnerability level
Disaster distribution per area
Disaster potential
Disaster impact
Direct: victims, damages
Indirect: losses, long term impact



資料17-4は年ごとの洪水の発生を示したもので、資料17-5は月ごとの分布です。11月と12月がもっとも起こりやすいことがわかります。

資料17-6は先ほどの情報を使ってできるさまざまな分析です。

資料17-7は年ごとの変化で、2009年に非常に災害が多かったことがわかります。資料17-8は被害の状況で、犠牲者の数等をみると2011年がかなり多いことが示されています。

これらのDIBAデータベースを使って、さまざまな成果を今後も挙げていきたいと思います。最終的には、早期警報システムをどのように設置するのかといったことにも役立てたいと考えています。